

機能性フィルム研究会 2026 年 1 月合同例会 開催プログラム(配信版)

主催: 機能性フィルム研究会

企画: 理事 中島 但/大日本印刷株式会社

幹事 溝渕 隆/Toppan 株式会社

機能性フィルム研究会 2025 年度年次テーマ

「素材とコンバーティング技術で広げる機能性フィルムと未来」

- ◆ 開催日時: 2026 年 1 月 28 日(水)13:00~16:45(予定)
- ◆ 会場: 東京国際展示場(ビッグサイト) **西ホール4F** 新機能性材料展展示会場内「イノベーションステージ」

* 事前に展示会来場登録を行い、入場証を入手してお越しください。

事前登録サイト: <https://www.cj-exhibition.com/>

- ◆ 受付開始: 12 時 15 分~
- ◆ 例会開始: 13 時~

1. 13:00~13:05 (5 分) 開会挨拶
2. 13:05~14:05 (60 分) メンバーズ・インサイト発表(会員交流フォーラム)
 - 1) 日本光研(株)
 - 2) (株)東京プロダクツ
3. 14:05~14:10 (5 分) 休憩
4. 14:10~15:00 (50 分) 講演①「水素分離膜モジュールの開発」(仮題)

東レ株式会社 地球環境研究所 研究員 小野 久美子氏

<講演のポイント>

水素は使用段階で CO₂ を排出しないクリーンな次世代エネルギー源であり、低炭素化・脱炭素化実現の選択肢の 1 つとして利用拡大が予想されている。種々の水素精製技術のうち膜分離法は相分離を伴わない分離条件で操作できることから、省エネルギー・省スペースなプロセスとして期待されている。水素分離膜においては、水素を含む混合気体から高純度の水素を効率良く得るために、高い水素透過性と、その他の気体との高い分離性が求められる。そこで、当社の水処理膜、特に逆浸透膜(RO 膜)研究で培ってきた構造解析技術や精密界面重合技術、流路材技術を深化させ、水よりもサイズが小さい水素の精製に適用可能なポリアミド複合膜からなる水素分離膜モジュールの研究・開発に挑戦した。

5. 15:00~15:05 (5 分) 休憩
6. 15:05~15:35 (30 分) 矢野経シリーズ 船木知子の市場レポート『次世代市場での活用が期待される高機能フィルム』
7. 15:35~15:50 (15 分) 事務局連絡
8. 15:50~16:40 (50 分) 講演②「CO₂ 分離回収・有効利用のための膜分離技術の開発」

(本講演については、講師のご要望によりオンライン配信及びビデオ配信はありません)

地球環境産業技術機構 化学研究グループ グループリーダー(主席研究員 博士) 余語 克則氏

<講演のポイント>

RITE では CO2 分離回収・有効利用に関わる各種技術の早期実用化・産業化を目指した研究開発およびその産業利用に向けた活動を行っている。RITE が開発した化学吸収液は既に実用化されており、現在 2 つの商用設備が稼働している。膜分離は原理的に高压用途に有利であるため、これまで高压ガス(CO₂/H₂)源として IGCC、水素製造プラントを適用先に想定してきたが、2024 年度からは、小型水素製造システム(CO₂ 回収型水素製造装置)の実証試験に向けた新たな NEDO 事業を開始している。さらに CO₂ 有効利用技術として、脱水膜を搭載した膜反応器(メンブレンリアクター)の開発に取り組んでいる。製鉄所から排出する CO₂ を水素と反応させて高効率にメタノールを合成する NEDO 事業「CO₂ を用いたメタノール合成における最適システム開発」を民間企業と共同で 2021 年度から受託している。当日は、これら膜分離技術開発を中心に我々の CO₂ 分離回収・有効利用技術開発の状況について解説する。

9. 16:40~16:45 (5 分) 閉会挨拶

◆ 技術交流会(事前申込者のみ) 17:15~19:15(予定)

- ・ 会場: 日比谷松本楼ビッグサイト店 (https://matsumotoro.co.jp/shop_list/01ariake.html)
- ・ 会費: ¥5,000/1 名

<参考>

「新機能性材料展」小間番号 4W-D39 の機能性フィルム研究会パビリオン内では、会員 12 社が出展しております。

「機能性フィルム研究会開催行事に於ける新型コロナ感染対応について」*

2023 年 7 月 1 日

1. 発熱のある方や体調の優れない方は、参加をお控えいただきますようお願いいたします。
2. 新型コロナに感染された方は、有症状の場合、「発症後 5 日を経過し、かつ症状が軽快した後 1 日を経過するまでの間」、また無症状の場合、「検体を採取した日から 5 日を経過するまでの間」外出を控えることが推奨されておりますので、この間の現地参加はお控えいただきますようお願いいたします。
3. 現地参加者のマスク着用に関しては、個人の判断が基本となりますが、最近の感染者増加傾向を考慮し、マスク着用を推奨いたします。なお例会開催の場合では、講演者にはマスクなしで発表いただきますが、聴講者とは十分な距離を取って行ないます。
4. 受付時に手指消毒用消毒剤を用意しておりますので、随時ご利用下さい。
5. 今後の社会状況の変化によって対応を変更する場合には適宜ホームページ等でご案内いたします。

以上